



JIC インフォメーション

第227号 2024 年 1 月 10 日

年 4 回 1・4・7・10 月の 10 日発行

1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>東京オフィス: 〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-10-5 岡田ビル 6F TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪・ロシア留学デスク: 〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-2-22 NSビル 5F TEL: 06-6944-2341



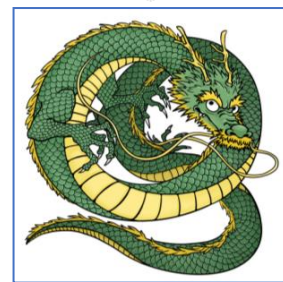
はりねずみのジェーニャ



あけましておめでとうございます

本年も ^{ジェーアイシー} JIC をよろしくお願いします!!

С Новым 2024-ым Годом!!



(上) JIC の新年カード (作: 井上沙弥香)、(下) パートナーから届いたカード

JIC では、Jクラブ(JIC 友の会)会員を募集しています。
年 4 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。



JICスタッフより新年のご挨拶

2024年「リセット」「再出発」の年

謹賀新年！本年もJICをよろしくお願い申し上げます。

新年早々から能登大地震、羽田空港での航空機事故と大惨事が発生し、辛い年明けとなりました。しかも羽田空港で犠牲になったのは、正月返上で能登へ支援に出かける海上保安庁の隊員たちでした。能登大地震とそれに関連して亡くなられた方々、また被災し避難生活を余儀なくされている多くの方々に心からお見舞いを申し上げます。

本号は、毎年1月号恒例のスタッフ新年あいさつです。今年はとくにテーマを設定しませんでした。が、去年はウクライナ戦争に続いてパレスチナで戦火があがり、またアジアやアフリカ各地でも内戦が続くなど、世界は戦争と人道危機の拡大に直面しています。国内でも、自民党の政治資金パーティ裏金問題をはじめとして、これまで私たちが築いてきた社会の在り方を根本的に見直さざるを得ないような問題がいくつも噴出しました。今年は、世界と日本の諸問題をすべて「リセット」して、「再出発」する年にしなければならないと思います。

と、大きく構えたものの、コロナとウクライナ戦争で翻弄される小さな専門旅行社としては、経営と活動を維持するのが今は精一杯。会社を維持するために一生懸命頑張っている JIC スタッフたちが、仕事や日常生活の中で感じ取ったささやかな思いを綴っています。どうぞ一緒に味わってください。

本年も、ジェーアイシー旅行センターおよび国際親善交流センターをよろしくお願いいたします。

ロシア極東ウラジオストクを訪問 ～ロシアへの交通の要所となった中国の 北京・ハルビン～

杉浦 信也(ジェーアイシー旅行センター代表取締役)

2019 年以来、コロナ禍が始まってから約 4 年半ぶりにロシア極東のウラジオストクを 12 月に訪問してきました。2022 年 2 月の露宇戦争の開戦の影響を受け、コロナの水際対策が終了した現在に至るも成田・羽田空港からウラジオストクやハバロフスクへの直行便は再開されていないため、今回は下記のような北京（大興国際空港）経由のルートを利用し渡航することにしました。

12 月 10 日 15:55 羽田発／18:45 北京着 CZ648 便(中国南方航空)

12 月 11 日 02:20 北京発／06:45 ウラジオストク着 SU5469 便(ロシア航空)

12 月 14 日 00:45 ウラジオストク発／01:30 北京着 SU5468 便

12 月 14 日 10:00 北京発／14:25 羽田着 CZ647 便

お気づきの通り北京大興国際空港での乗り換え時間は往復とも 8 時間以上ありますが、従来の成田～ウランバートル～イルクーツク～ウラジオストクのルートと比べると乗り換えが 1 回で済むこと、上記の中国南方航空を利用した場合は預け荷物をウラジオストクまでバゲージ・スルーにすることが



北京・大興国際空港トランジットエリアのトランスファー・カウンターで乗継便の搭乗券を受け取る人たち

可能で、北京空港でトランジットエリア内での乗り換えができて便利です。乗り換えエリア内ではクレジットカードの利用も可能で両替所（日本円から人民元を経由してルーブルへの両替もできます）やファミリーマートもあります。また無料のリクライニング・スペースの他、有料ですがシャワーが利用でき小バイキングの食事も付いている休息室(Pay Lounge)があり、一息つくことができます。休息室は 24 時間営業で、休息スペースは 3 時間 220 人民元(約 4,800 円)、個室(ベット有)は 2 時間 280 人民元(約 6,100 円)です。詳しい料金はこちら参照ください。↓

<https://twitter.com/twiJIC/status/1735091456589930610/photo/1>

注：現在、中国は第三国への乗り換えのためのトランジット・ビザは免除になっていて、希望すれば北京で入国することも

可能です。詳しくは下記のサイトを参照ください。↓

<https://japanese.beijing.gov.cn/travellinginbeijing/144hourvisafreetransit/mobile/>

今回、私は北京―ウラジオストク便を利用しましたが、12月からハルビン―ウラジオストク間にアエロフロート（オーロラ航空とロシア航空のオペレーション）が週 5 便運行しはじめました。ハルビンの空港での乗り継ぎは、一度入国をして乗り換えの手続きをしなければいけない点や帰路乗り継ぎ時間が長い難点がありますが、航空料金は北京経由より安くなります。

◇困難な時期でも往来や交流の継続を◇

ウラジオストクでは、極東連邦大学を訪問し今年 8 月に実施予定のロシア語研修を目的としたサマースクールについての打ち合わせや、日本からの旅行者を受け入れてもらっている旅行会社の方々と今後のウラジオストクのツアーについて話し合いをしてきました。



極東連邦大学 正面



極東連邦大学・対外関係副学長のニキータ・スミルノフ氏(左から2番目)ほかスタッフのみなさんとともに

ロシア・ウクライナ間の戦争がはじまりもうすぐ 2 年になります。ロシア渡航に関しては外務省の危険情報でレベル 3「渡航中止勧告」が発出されたままになっています。しかし、内容をお読みいただければわかる通り、発出の理由は、①日

ロ間で直行便が停止され、ロシア国内からの出国手段が制限されていること。②ロシア国内で海外で発行された国際クレジットカード（Visa や Master など）が利用不可となりロシア滞在には経済制裁措置に留意した準備が必要不可欠になっていることに重点が置かれています。

露宇間は現在戦争状態にありロシア領内への無人機の飛来も実際起きていてそうした危険に対する安全配慮が必要なのは理解できますが、一方でこの紛争の解決、停戦合意から制裁の解除を伴いながらの和平へのプロセス、その中での外務省の危険情報がレベル 3 からレベル 2「不急不要の渡航の中止」さらにレベル 1「十分注意してください」へと至る過程は、この 2 年間の一方の側の攻勢～他方の側の反攻を繰り返す様子を観察すると 5 年、10 年単位の時間を必要とすることは覚悟しておく必要があります。もはやこの状況は 1 年、2 年の短期間で解決されるような課題ではなく、当面は継続される＜新しい常態＞として否が応でも受け入れざるを得ないのではないのでしょうか。

参考：外務省のロシアに関するスポット情報はこちらを参照ください。

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsposhazardinfo_178.html#ad-image-0

今年度、わたしたちは露宇間の戦況、ロシア国内の安全状況や生活条件を慎重に確認しながらではありますが、まずはウラジオストクやハバロフスクなどロシア極東部やシベリア地域を中心にして視察のためのツアーやロシア留学・研修を昨年度にもまして拡大していこうと計画しています。

2020 年初頭から始まった新型コロナ感染拡大による水際対策から現在まで、すでに 4 年あまりが経過し、日ロ間の往来や交流は途切れたままとなっています。これ以上の中断は日ロ双方の交流によって長い年月をかけ蓄積されてきた経験や人的なつながりを失うことになりかねないところまで来ています。現在、毎日のようにロシア・ウクライナの戦況はテレビ、新聞や SNS を通じて伝えられています。報道される内容はロシアやウクライナの当局・関係者の発言が中心となっていますが、それでも留学経験を持つロシア研究者や現地での滞在経験を持つ方々などの発言が、一面的になりがちな報道にロシアやウクライナの内側からの視点を加え豊かにしていると言えます。もしこうした人材や経験、人とのつながりが途切れてしまったら相互の誤解や偏見がさらに拡大されていたことでしょう。

今回、極東連邦大学を訪問した際に副学長のスミルノフ氏が 8 月のロシア語研修の時期は夏休み中で学生を集めるのは難しいが、日本の学生たちと連邦大学の学生との交流会を準備することを申し出ていただきました。極東連邦大学でのロシア語研修をはじめ、今年 JIC が企画する旅行や留学、研修の実施にご理解・ご協力をいただけますと幸いです。

■羽田から北京経由ウラジオストク訪問時の様子を X (旧 twitter) で紹介しました。

<https://twitter.com/twiJIC/status/1733698819110670604>

■日本からロシアへのフライト情報はこちらをご覧ください。

<https://www.jic-web.co.jp/cgi-bin/blog/?c=detail&pk=66>

■JIC のパッケージツアー まるごとロシア「ウラジオストク 5 日間」

https://www.jic-web.co.jp/cgi-bin/russia/tour/index.cgi?c=detail&pk=86&area_id=6

2024 年は旅行の年に！

中林 英子 (JIC 大阪)

あけましておめでとうございます。

昨年はコロナ規制もなくなり、海外旅行もいよいよ回復するかと思いましたが、日本人の海外旅行者数はコロナ前の 2019 年にはまだ戻っていません。それでも何の検査もなく海外に行けるようになったので、少しずつ旅行に行こうという風潮が高まってくることを期待しています。JIC でもロシア以外の新しいツアーを出し始めました。昨年ツーリズム EXPO に行ったときに中央アジア、コーカサス、バルト、ポーランドの旅行会社の担当者と話す機会がありました。色々な現地状況を聞いたたびに、いよいよ旅行シーズンの到来という気分になりました。

中央アジアやコーカサスの風光明媚な観光地は、秘境と言われる地域も多く、交通手段も限られています。そのような場所だからこそ、手つかずの自然が残っています。

昨年はジョージアの地方のオプションツアーを新たに追加しました。今年はカザフスタンのオプションツアーを加える予定です。カザフスタンのグランドキャニオンと言われるチャリン渓谷やアルティン・エメルの歌う砂丘など、日本では見られない絶景が楽しめると思います。カザフスタンは日本からはソウル経由で行くことができます。冬は極寒なので、初夏～夏がベストシーズンです。ロシア以外の旧ソ連圏旅行は、観光地としてまだマイナー地域が多いので、今後とも紹介していきたいと思います。

ただ、JIC はロシア専門旅行社なので、ロシア旅行に関しては常に気にかけています。日本人の海外旅行が完全にコロナ前と同じになったとしても、ウクライナ戦争が続くかぎりロシア旅行に関しては厳しい状況が続くでしょう。コロナ前、多くのお客様が旅行したロシア、私自身も年 1 回程度は訪れていたロシアが今は遠くなってしまいました。私にとってロシアは始めて訪れた海外であり、学生時代を過ごしたモスクワは多くの思い出が詰まっています。JIC でお客様と旅行相



談をするとき、モスクワの良さを話し、ぜひモスクワ川沿いのクレムリンの要塞の赤、教会の金の丸屋根、聖ワシリイ寺院のカラフルな教会、絵画のように美しい街を見てほしいと思ったものです。現在、ロシアへは外務省の海外危険情報が発令されています。「ロシアは見どころがいっぱいで、素敵なおところですよ。ぜひ見て来てください。」と自信を持って旅行を勧められなくなりました。とはいえプーシキンの文学やチャイコフスキーの音楽の価値が変わらないのと同じように、政治や世界情勢に動かされないものはあります。先日エルミタージュ美術館のホームページのいくつかの絵画と解説を見ました。ページを進むと何度か見学した場所であっても、もう一度実際に見たい、あの場の雰囲気を感じたいという思いに駆られました。

近いうちに何の不安もなく行きたいところに行けるようになることを願っています。2024 年、皆様の願いが叶いますように。

「オフラインの魅力」

五十嵐 真夕 (JIC 東京)

明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行し、人目を気にせず思い切り旅行を楽しめるようになった昨年。私も久しぶりに旅多き一年を過ごし、やはり旅行が好きだと再認識した 2023 年となりました。

春。旧友たちに会いに行った大阪、京都。高校時代の友達、大学時代の友達、留学時代の友達...どのメンバーとも 4、5 年ぶりの再会となりました。中にはわざわざ愛知県から車を飛ばして来てくれた友人もいて...「私ってば愛されてるなあ」と幸せを感じた旅行でした。

夏。関西に 10 年近く住んでいたのに未踏の地だった神戸。ちょうどポートタワーが工事中で全く見られなかったのです

が、囲いに覆われたポートタワーのある景色も良い思い出になっています。帰りの新幹線、車窓からはちょうど淀川花火大会の花火も見え、忘れられない旅行になりました。夏は神戸のほか、お盆には 15 年ぶりに金沢にも行き、35℃に迫る気温の中、金沢城公園と兼六園を子供たちと練り歩きました。暑さでやや不機嫌になっていた子供たちと金箔ソフトクリームを食べたのですが、その時の子供たちの笑顔が忘れられません(笑)。

秋。家族で行ったディズニーリゾート 1 泊 2 日。母子 3 人でベタ観光をした大阪と京都。学生時代に住んでいた街に、自分の子供たちを連れて行くのはなかなか味わい深いものでした。春には桜散る金閣寺に行ったのですが、秋には紅葉映える金閣寺に行くことができました。1 年に 2 度も金閣寺を訪れるという贅沢は、きっとこの先ないでしょう。

そして冬、人生初の沖縄！実はこの記事を書いている日にはまだ出発していないのですが、どんな旅行になったでしょうか。



弾丸日帰り富士急ハイランド満喫中

ほかにも日帰りで埼玉に行ったり河口湖方面に行ったり横須賀の猿島に行ったりと、まめに出かけて充実した年だったなあと思います。なかなか旅行できなかったコロナ禍、各旅行会社ではバーチャル観光コンテンツの提供やオンラインツアーの開催が盛んになり、家にいながら簡単に旅行気分を味わえるようになりました。弊社にも開催の経験がありますが、お土産付きのオンラインツアーなどもあり、より旅行した気分になれるサービスも登場して内容の充実度が上がっていると感じます。私も他社のオンラインツアーに参加し、行きにくくなってしまったロシアのウラジオストク観光やウクライナのチェルノブイリ視察をさせていただき、自宅にいながらここまで臨場感を味わえるなんて、と驚いたものです。

オンラインツアーにはオンラインならではの良さがありますが、個人的にはやはり旅行はオフラインだなと感じています。実際に時間をかけて目的地まで行って、自分の足で歩いて、自分の目で見て。一人で自由気ままに楽しむのも良いし、気の合う人と行って思い出を色付けるのも良いものです。

2024 年はみなさまのそんな旅行のお手伝いがもっと出来たらいいなあという願いを込めて...。旅行会社の社員っぽくまとめたところで、みなさま、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます！

日常の喜び

百瀬 智佳子 (JIC 東京)

新年おめでとうございます。

さてコロナ自体はなくなりませんが、その騒ぎは収まりつつ。昨年からは街に出れば駅にも店にも人が増え、ニュースを見れば何年ぶりにお祭りが開催されたなどと賑わいしきり。「日常が戻った」という表現がよく使われました。

でも、私の日常.....って、どんなだったっけ、とふと思います。

日常が戻って賑わいが増えても、人ごみでマスクをするのは「戻った」日常ではないし。この数年で年をとり子供も大きくなり、すると食生活や家族との過ごし方も変わる。変わった結果が今の日常という、不可逆的な変化もあるし。

「僕が思うに、世の中はらせんで出来ている。事象はなべてらせん状に進むのだ。同じに見えても少し違う」と、高校時代の生物の先生が DNA のらせん構造にかこつけて語った言葉を思い出したりしておりました。

ところが。そんな私が昨年、「ああ.....日常が戻った！」と、じんわりとした感動を覚えたことがあります。それは、「お客様から、旅のご感想をいただく日常」。

コロナ騒ぎに引き続いての戦争で世界の航空便が激減するなか、それでも行き来を要するお客様のルートに頭を捻る日々。中東乗継かモンゴル乗継か、馴染ない航空会社だけでなく荷物の規定はいかなるものか、時刻通りに運航するか。

ひたすらに移動のご無事をお祈りするお手配が多かったのですが、昨年の夏頃からは、所用でロシアに行かれる方が増えて滞在中のお話を聞かせてくださったり、他国に観光に行かれた方が、のんびり旅のお話をしてくださったり。

「本をたくさん買いました」、「面白いサラダがありました」、「駱駝に乗りました」、そんなメールをあれこれといただいて、ああ、ご無事で楽しんでおいでですね、と思わずひとりでもニコニコしちゃう.....担当者冥利につくる、とても嬉しい日常のひとつが戻ったのです。

今年もそんな素敵な時間がありますように。これからも、旅を楽しむ方がより増えていかれますように。皆様にとって、より良き年となりますように。そう願ってやみません。



「百瀬です:by お客様」



大阪の夜景;外国人観光客も多く戻ってきました

情報を発信し対話を続けて

小原 浩子 (JIC 大阪)

明けましておめでとうございます。

2023 年はコロナの制限が取り払われて、移動やマスクの制限なしに、集まったり話をしたりできる年となりました。それまで恐る恐るマスクをして人数制限をしながら、人と人の間を空けていた映画館や劇場、コンサートなども普通に開催されるようになり、そのおかげで私も昨年はいくさんの会合に参加し、コンサートや映画館にも気兼ねなく行くようになりました。学校行事も再開されて、息子たちも晴れて文化祭や体育祭、修学旅行と学校行事を制限なく楽しむことができました。何より心の制限が取れたことで、気持ちが前向きになったことが大きかったなと個人的には思っています。

そのせいもあってか昨年は人に会ったり話をしたりすることで、自分自身の見聞が広がった年になったのかもしれないと思っています。自分が考えていることは、人と対話することで深まり修正が加えられ、さらなる新しい発見やアイデアが生まれます。反対に話をしないことは、物事や事象の見方に関する誤解や、一方的な思い込みを生みます。もちろん対話をして理解し合えないことも多くあるのですが、対話をしないことで人は容易に離ればなれになることを、私たちは歴史の中でも自分の属する小さな世界の中でも、経験しているのではないのでしょうか。

戦争が始まった当時、ロシアの関係者に対する嫌がらせやいわれなき誹謗中傷がありました。私たちはロシアのウクライナへの侵攻をけって容認はできません。しかしそれらのやみくもで感情的な発言に対して、ロシアを知り、状況を憂える JIC をはじめとする多くの団体や個人が、誹謗中傷に負けずロシアに関する情報を発信し対話をしてきたことで、少なくともロシアの文化や芸術、ロシア語に対して、イメージだけに偏った誹謗中傷は少なくなってきたのではないかと感

じます。今後も、各種団体と協力しながらロシアの情報を発信し対話を続けていくことができればと思っています。

ちなみに私はこの 2 年ほど (自称) X (ツイッター) 係をやっておりまして、みなさまに JIC の X (ツイッター) のフォローをお願いしています。ロシアだけでなく中央アジアやコーカサスなど旧ソ連の国や東ヨーロッパの国々の情報についても案内していきます。

新しい年が、ロシアの関係者にとって明るい年になることを祈って。

JIC の X (ツイッター) ↓

<https://twitter.com/twiJIC>



QR コード



「今だからこそ、家族と健康」

キリチェンコ・オリガ (JIC 東京)

皆さん、明けましておめでとうございます。

皆さんにとって昨年はどんな年だったのでしょうか。

私は新しい学びが多く、とても忙しい 1 年でした。久しぶりに新しいことを勉強する機会があり、学生だった頃を思い出したり、仕事が忙しく、日々がものすごいスピードで過ぎてしまったりしました。

しかし、そんな日々を送る中で私は気がついたものがあります。それは家族の大切さです。よく聞く言葉であり、単純なものではありますが、日々が忙しくなり、自分に精一杯になればなるほど思い知らされます。自分が仕事に精一杯で駆け回っている裏では、暖かいご飯を作ってくれたり、家事を代わりにやってくれたり、常に私のことを気にかけて行動をしてくれている人がいます。しかし、世の中の出来事、コロナウイルスや戦争などによってそんな大切な人たちを失ったり、離れ離れになる人たちもいます。それは、私たちに無関係なことではありません。いつでも、誰にでも起こりうることです。だから、今この瞬間を大切に過ごす必要があるのだなと、特に最近のニュースなどを見ていると思います。

皆さんはどうでしょうか。自分が忙しい時に、忙しいことを言い訳にして大切な人を傷つけてしまっていないですか？昨年はこういった事柄に気が付き、今あるこの平和な生活が当たり前ではないということに気が付かされました。だから、今年の目標としては、今まで以上に家族や友達を大切にして、仕事が忙しくても何があっても、せめて感謝の気持ちだけでもしっかり伝えて行けたらいいなと思います。みなさんもぜひ

ひ意識してやってみて下さい。きっと生活が今まで以上に穏やかになって、より一層、平和のありがたさや家族、友達の存在の大切さに気がつくと思います。

また、もうひとつの目標としてはやはり、健康な 1 年を過ごすことです。自分が健康でなければ感謝も伝えられませんし、仕事も何もかもできません。特に最近ではコロナウイルスの拡大は落ち着いてきたものの、新たな感染症や病気が至る所で発生しています。病気にかからず、健康な 1 年を過ごすためにも、生活習慣を見直そうと思います。しっかり睡眠を摂ることやバランスの良い食事を摂ることなどですね。当たり前のことっていうのはできてそうで案外できてなかったりしますよね。みなさんもこの 1 年の目標を何か一つ、二つ掲げて頑張ってみてください。



では、最後にもう一度、あけましておめでとうございます。皆さんにとってこの年がより良いものとなりますように！

日常生活の中にポジティブを見つけましょう！

チステリナ・イリーナ (JIC モスクワ)

2024 年が目前に迫って、新しい年が来るのを心持ちにしています。

23 年はどんな一年でしたかと考えて、最初の思いは「ああ... 今年も大変な年となってしまった」です。少し困惑を感じました。

未来の人々は 2023 年について何を知っておくべきですか？生活費の危機、国際的な混乱、気候変動など...、何か良いことは入れられますか？そして、2020 年~2022 年の非現実的な状況はすでに思い出すのが難しいように思いますが、その影響は今でも感じられます。

良いニュースを求めて、ソーシャルメディアに目を向けました。モスクワ、サンクトペテルブルク、クラスノダールなどで 4 月にオーロラを見られたと多くの人が思い出しました。その地方でオーロラが観測されるのは本当に珍しくて、磁気嵐が発生したため、可能になりました。マンチェスターシティがクラブ史上初の UEFA チャンピオンズリーグのファイナル進出を果たしたことを喜ぶ人もいます。

一方、2023 年に素晴らしい前進もありました。インドは予想外に宇宙で信じられないほどの成功を収めました。4 番目の月面着陸成功国となって、無人月面探査機「チャンドラ

ヤーン 3 号」が世界で初めて月の南極に着陸しました。将来に宇宙での新たな発見があるかもしれません。日本とアメリカの製薬会社がアルツハイマー病の新薬を開発し承認されました。この薬は治療薬として利用されて、病気の進行を遅らせることが可能です。



新年はどうなるのかを予測するのは難しいですが、2024 年にロシアで何か面白いことは予想されますでしょうか？

3 月 9 日 ガガーリン生誕 90 年記念 (1934.3.9-1968.3.27)

6 月 6 日 プーシキン生誕 225 年記念 (1799.6.6-1837.2.10)

8 月 10 日 スーズダリ*の誕生 1000 周年(1024)

*スーズダリはロシア・ヴラジーミル州の古都

10 月 マールイ劇場(旧：帝室劇場)創立 200 年記念 (1824)

11 月 国立モスクワ天文館の開館 95 年記念 (1929)

12 月 エルミターージュ美術館創立 260 年記念 (1764)

最後になりましたが、昨年本当に色々ありがとうございました。

今年も宜しくお願いいたします。皆様にも良いお年になりますように！

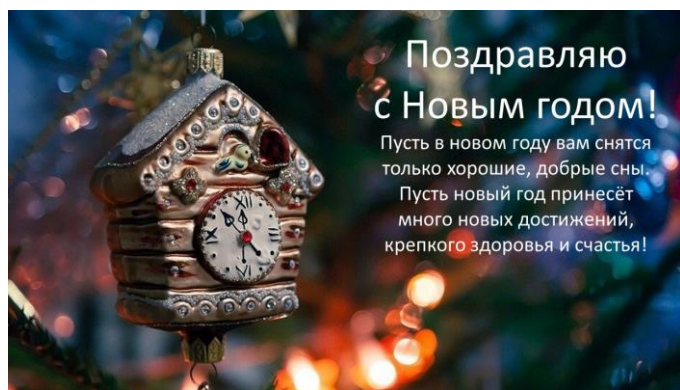
「泰然自若」8 時間睡眠！

荒川 好子 (JIC ペテルブルグ)

皆様、新年明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願い申し上げます。

私の今年の抱負は「泰然自若」です。私たちを取り巻く世界は広く大きく様々な思いを抱く人々がそれぞれの人生を懸命に生きていますが、今年、私は、自分の軸をしっかりと持って、穏やかな心で堂々と、今を大切にすることを第一に考えることができるカッコいい大人になることを目標にしたいと思います。そのために、今年は自分や家族の健康に一層気を配り、8 時間睡眠を心がけたいと思います。

自分軸と今を大切にするという目標から、8 時間睡眠へと思考が飛んでしまいましたが、2023 年を振り返り、やっぱり早寝早起きして生活リズムを整えることが時間にも心にも余裕のあるカッコいい大人への第一歩のような気がしていま



す。1 年を通して日照時間の長短の差が激しいサンクトペテルブルクでの生活で、白夜で明るくても寝られるようになり、逆に極夜で暗くても無理して起きる生活を自分に強いてきました。ロシースカヤ・ガゼータによると、2017 年のある調査ではロシア人の平均睡眠時間は 9 時間 20 分だったそうですが、私の周りのロシア人に聞くと、実際には寝不足にならない最低限の睡眠時間は 8 時間ぐらいの認識のようです。

私も今年は、8 時間睡眠を軸にした規則正しい生活リズムを心がけて、心身健康で、心に余裕のある人間になることを目指したいと思います。そして、泰然自若とした気持ちで仕事に取り組むことができる土台をしっかり固めたいと思います。なんて、ついつい夜更かししてしまうのですが・・・。

皆様にとっても、心穏やかで素敵な一年になりますようお祈り申し上げます。

Поздравляю вас с Новым годом! Пусть в новом году вам снятся только хорошие, добрые сны. Пусть новый год принесёт много новых достижений, крепкого здоровья и счастья!

2024 年で実現したいこと、ちゃんと決めましたか？

キクチ・リュボフィ（JIC 東京）

みなさん、2023 年お疲れ様です。みなさんにとってどんな一年でしたか？

2023 年で一番感動した日は何月でしたか？

会いたい人と会えましたか？

言いたいことを言えましたか？

行きたい場所へ行ってきましたか？

決めていた予定を現実になりましたか？

悲しい日もあったはずと思いますが、悲しい日があるからこそ嬉しい日もあるはずですよ。

それから、2024 年で実現したいことをちゃんと決めましたか？ 辰年ですので、必ず良い年になると信じています。

私は 2024 年で現実したい夢を持っています。ただ、言いません。ロシアでは「夢を叶えるために、夢を誰にも話してはいけません」。実際どうでしょうか。

私はもっと強くなりたい。もっといろんなことを勉強したい。もっと世界を知りたいです。そして、もっと出逢いたいです。

子供の時、「ハリー・ポッター」のストーリーが好きでした。本・ゲーム・映画がすべて好きでした。ですので、今年の夏、豊島園でオープンされた「ワーナーブラザーズスタジオツアー東京 - メイキング・オブ・ハリー・ポッター」に行きたくなりました。土日に行くため、チケットを一か月前に買わないと！ 私は 11 月購入し 12 月行ってきました。とても人気があります。日本人も外国人もたくさんいました。魔法の世界をさらに楽しむため、マントと魔法杖を購入して身に付けた人がたくさんいました。全部見るためには 4 時間かかるようですが、私は一日スタジオで過ごしました！（暖かい季節また行きたいです！）スタジオに入ったら途中で出られませんよ。入って一つのルートに進んでいて、真ん中にカフェがあります。人が多いのに、スタッフのサービスはとても早かったです。少し休んだら残りの半分のルートに進んで行きます。

アトラクションではないスタジオなので、雰囲気のある写真を撮るため、家族と友達と一緒に楽しい時間を過ごすための場所です。さらに、一つの面白いコーナーがあります。追加料金でほうきで飛んでいる画像を作成できます！スタッフさん達が指導してくれるから、どんな動きをするべきか迷わなくて良いですよ。



白川郷の展望台から

2023 年にあった嬉しい話と言えば、「誕生日の日には行ったことない場所に行こう」と決めて、どこへ行けばいいかしら迷いましたが、岐阜県の白川郷にしました。晴れて暑い日でしたが、楽しかったです！

みんなは行ったことがありますか？人生で一回だけでもお勧めします。



空港すら恋しいこのごろ

楽しみな「修行」

小西 章子 (JIC 大阪)

あけましておめでとうございます。

大阪デスクの小西です。今年も JIC をよろしく願い申し上げます。

昨年はいよいよ外出自粛ムードもおさまり、歓送迎会や忘年会も元通り、帰省もようやく普段通りにできたという方が多かったのではないのでしょうか。海外旅行も 100%とは言わないまでも、復活してきたなあと感じる程度には回復している気がします。国内旅行は言わずもがなです。

ところで、皆様は、航空会社のステータス修行とやらをご存じでしょうか？マイル修行と呼ばれたりもしています。私は昨年はじめて知り、調べてみたところ、航空会社の上級会員の資格を得るため、もしくは保持するために、飛行機に乗りまくることを指す言葉のようです。1日にただただ飛行機に何往復も乗る方がいらっしゃることから「修行」と呼ばれているそうです。1日で「(例) 東京⇒沖縄⇒東京⇒沖縄⇒東京」とか、普通に考えたら意味わからないですもんね。しかも、それを3週連続とか。でもそれが良いのだそうです。沖縄の海で泳ぐのが目的ではなく、航空会社の上級会員になるのが目的なので。乗り継ぎ1時間以内で、今乗ってきたのと同じ機体・乗務員の便に乗って戻るというスケジュールを組み、フライトアテンダントさんに「おかえりなさい」と言われるそうです。でもそれが良いのだそうです。北海道での海鮮三昧が目的ではなく、航空会社の上級会員になるのが目的なので (2回目)。もちろん出張や旅行を利用して資格を得る方もいらっしゃるのですが、相当意識して乗らないと難しいようです。体力も必要ですし、お金もかかりますしね。

気になった方はぜひ調べてみてください。奥深い世界です。私もまだ表面的にしか理解できていないと思います。この「修行」をされている方の体験談を見聞きして「なんて面白そうなゲーム!」「自分もそういうおかしい旅程で飛んでみた

い!」と思われた方は向いているかもしれません。

なぜこの「修行」が私に響いたのか考えてみたのですが、飛行機に乗ること自体を求めているような気がしています。旅先であれしたい、これしたい、も当然たくさんあるのですが、今の私には少しハードルが高く、もう少し気軽に実現させたいと思ったときに、偶然アンテナに引っかかったのがこれだったのだと思います。もちろん時間的にも経済的にもいわゆるステータス修行をする気はありませんが、長めの旅行はしばらく難しいかもしれないので、修行のような旅程で飛行機に乗ること自体を目的にする日をつくって飛んでみようと思案中です。計画を立てたとしても1日完結になると思うので、誰にも分からない、自己満足型の1日限定修行です。楽しみです。

今年こそ!

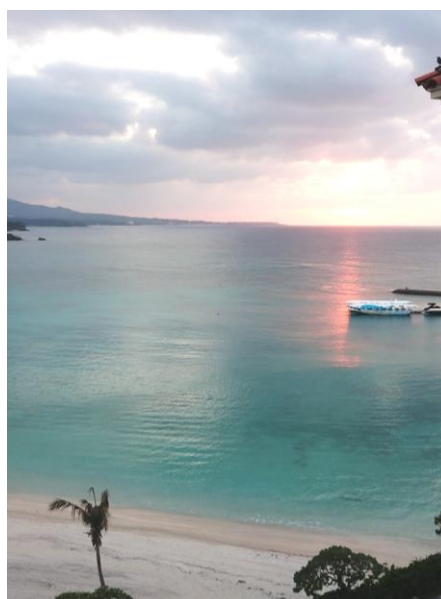
佐藤 早苗 (JIC 東京)

あけましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年5月に新型コロナの位置づけが季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられてから、私達の生活はほぼコロナ前の状態に戻りましたが、JICはまだまだ困難な状態が続いています。

私自身も他のスタッフ同様、一昨年より職場環境が変わりましたが、幸い温かい上長や同僚の方々に恵まれ、新しい環境にもだいぶ慣れてきました。でも願うのはやはり JIC の復活です。今が踏ん張り時ですね。



沖縄県名護市の夕日

クターのあれです!

ウクライナ侵攻直後に、友人がこのアプリでウクライナ語

日々なかなか自由な時間は取れませんが、私にはここ1年以上続けていることがあります。それはスマホでゲーム感覚で語学が学べる学習アプリでの勉強?です。最近テレビコマーシャルもやっているの、ご存知の方もいらっしゃるかもしれません。そう、緑のフクロウがキャラ

を習い始めたと聞いて、私もやってみようと思って始めました。が、新しい言語にチャレンジするのはハードルが高く、まずはなじみのある、ロシア語から始めることにしました。ロシア語は残念ながら日本語話者対象ではないので、問題や翻訳する言語はすべて英語になります。日本ではやはりまだマイナーということですね。でも英語の勉強にもなるので、一石二鳥です！

学習者の中にはロシア人も多く、そのほとんどが英語を学んでいるのが今の時代を映し出しているような気がします。学習者同士で繋がることのできるのも今時ですね。そしてこのアプリ、何と扱っている言語は 40 以上あるそうです。興味のある方はぜひ検索してみてください。

そろそろ私も新しい言語に挑戦しようと思うのですが、なかなか実行に移せないの、ここで宣言したいと思います。
＜2024 年の目標＞

☆☆ハングルに挑戦して、韓国旅行でその成果を発揮する！☆☆



伏見稲荷にて撮影

「境より」

井上 沙弥香(JIC 東京)

新年あけましておめでとうございます！

去年は精力的に趣味の写真活動に勤しむことができとても充実した 1 年となりました。

11 月には知り合いのスタジオさん主催の写真展にも参加させていただきました。写真展では十数枚を展示する必要があったので展示作品に統一性を持たせようと思い、テーマを決めることにしました。いろいろと悩みましたが最終的に展示で出させていただいたテーマは「能面」です。

なぜ能面をテーマにしたのかといいますと、能観劇自体はまだ片手で足りるほどしかありませんが、はじめて能を観劇したときのファーストインパクトがあまりに強く、感じたことを忘れないうちに写真として落とし込みたいと思い、そのテーマで展示用の撮影を進めることにしました。仕事での撮

影では自分自身の色や趣向を消して撮影しなくてはいけないことが多かったので、徐々に自分の好きなものを詰め込んだ撮影ができてとても楽しかったです。

自分が能を観劇し、一番惹きつけられた、インパクトが強かったのは、橋掛かりを通して役者が本舞台に現れるシーンです。能での橋掛かりはあの世とこの世を結ぶ道に見立てられているそうです。私が観劇した作品もまさに亡霊が現れるお話でした。

橋掛かりから鏡の間、そして本舞台までの滑るような静かな足取り、能面の表情は面なので勿論変わることはありません。それなのに、風んでいる。ずっと穏やかな表情であるその面に人間のあらゆる複雑な感情が溢れているように感じます。揚幕の向こうにはあの世、橋掛かりを通してこの世に繋がっている。死んだ筈の人間が舞台では声を得、舞い踊る。”能”を観劇しているのではなく”神事”に参列している、神秘的な儀式を見ているようでした！

「あの世とこの世、その境。能面から溢れる感情」それを表現したくて場所を変え、モデルを変え何枚も撮影しました。

そんな能観劇での感動をベースに撮影した写真を 1 枚掲載させていただきます。今年も自分の中の感動を写真に残せたらいいなと思います。

本年もよろしくお願いいたします！

「飛び出し注意！」

竹村 貢(JIC 東京)

あけましておめでとうございます！

昨年 10 月のとある休日、外出中に妻から電話があり、何も前置きもなく、『飛び出した！』と言われました。

すぐ理解できず、息子が車に轢かれたのかと思い、『車に？』と聞き返すと、妻はまた『飛び出した！』と言います。『つかさが？』と次男の名前を言うと、妻は『鯉が！』と言ってきました。

飛び出したのは、買って間もない鯉でした。



鯉は飛び跳ねるから水槽に蓋をした方がいいということは知っていて、ガラスの蓋をしていたのですが、1cm ほどの隙間から鯉が水槽から抜け出てしまい、柵の下にいつてしまったのです。その日家には妻と長男しかいなくて、私が『水槽に戻してよ』というと、妻は『触れない』と言います。長男に電話を替わってもらい、水槽に戻すように言うと、こちらでもまた『触れない』と言われました。『じゃあ 1000 円あげるから』とお金で釣ると、欲のない長男は『いらない』と言って断ります。妻に『鯉そのままだと死んじゃうから、網を使って戻して』と説明すると、『わかった』といい何とか鯉は無事に水槽に戻れたようです。もし誰もいない平日に鯉が水槽から飛び出ていたら考えると、恐ろしい出来事でした。

昨年の新年あいさつは金魚について書いたのですが、金魚と一緒に鯉も飼ってみたいと思い飼いはじめたのです。金魚の水槽で混泳させると、最初のうちは金魚を食べようとして追いかけてまわしていましたが、今は仲良さそうに泳いでいます。時々飛び跳ねますが、今のところ脱走はありません。

今年はもう一回り大きな水槽を買って、鯉と金魚がゆったり泳げるようにさせたいのですが、大きい水槽を買っていいか妻に聞くと、「どこにそんなスペースがあるの？」と怒られます。次第に鯉は大きくなるので、そのうち相談せずに水槽を買ってこようかと思っています。

みなさんも鯉を飼うときは飛び跳ねに注意して下さいね。では、今年もよろしくお願いします。

「交通事故のこと」

神保 泰興 (JIC 東京)



あけましておめでとうございます。2022 年 2 月以来の困難の中、他の JIC スタッフに続き、私も 8 月から週 3 日、グループ会社への出向生活がスタートしました。全く畑違いの仕事ですが、出向先の皆さんには、こんな年かさの「新入社員」に、本当に良くして頂き、感謝しかありません。出向先で 1 日も早く戦力になれるよう、修行の毎日を送っています。

それはさておき、実は遡ること昨年 5 月 9 日の夜、ちょうどロシアではビクトリーデーの祭日になりますが、交通事故に遭ってしまいました。自宅近くの、片側 1 車線の道路をミニバイクで走っていたところ、停車中のバスを追い抜こうと反対車線からはみ出してきた乗用車に正面衝突され、道路わきの駐車場に投げ出されました。バイクは大破、後で聞けば

相手の乗用車も全損と聞きましたので、かなり大きな衝撃だったと思います。救急車で病院に運ばれて診察を受けましたが、その時は手足の擦り傷と肋骨 1 本が折れただけ、ということで、入院することもなく、自宅に帰されました。翌日だけはお休みし（悪いことにグループツアーの説明会だったのですが、代わってもらいました）、その後は普通に出勤していたのですが、2 週間ほど経ってから、めまいと頭痛がひどくなり、再び病院にかかったところ、頭の中に血だまりができていたとの診断。びっくりしましたが、主治医からは、入院・手術はせずに、当面は自宅で安静にしながら、薬で散らしていきましようと言われました。それから 2 か月ほどの自宅療養と通院生活。時には眠れないほど、ひどい頭痛に悩まされましたが、薄紙を剥がすように、徐々に持ち直していき、最初にお話しした、8 月からのグループ会社への出向のスタートに、間に合うことができました。

生まれてこのかた、大きな怪我も大病もしたことがなかったのですが、JIC のピンチ、それによる出向とあわせ、自分にとって本当に大きな、初めての人生の経験となりました。健康のありがたさと共に、先の見えない身体の痛みというもの、どれだけ人を不安にさせるか、心を弱らせるか、ということを実感しました。間違いなく、以前よりも、病気や怪我で苦しんでいる、他の人の気持ちに寄り添えるようになったように思います。

今のピンチも、まだまだ出口が見えず、何年かかるかわかりませんが、明けない夜はない、冬は必ず春となる、と信じます。今回の交通事故と同じように、いつか、あの時の経験があるから今がある、と言えるようになりたい、と願っています。まずは、今いる場所で、全力で頑張り、そこでなくてはならない存在になれるように。

本年もよろしくお願いします

柳沢 昭子 (JIC 東京)



あけましておめでとうございます。

本年もよろしくお願いいたします。

本年はいままで挑戦できなかったことに挑戦したいと思います。長いようで短い 365 日間、日々大切に丁寧に過ごせたらと思います。

写真: 去年行った大阪城

誰かとの楽しい思い出は 取扱注意

岡本 健裕 (JIC 大阪)

レオニード・ガイダイと聞いて誰のことかすぐわかる人はこのインフォメーションの読者には珍しくないでしょう。でも大多数の日本人にとってはそうではないはずなので説明しますと、(1) レオニード・ガイダイはソ連の映画監督の名前です。(2) それもトップクラスの巨匠です。現地での知名度は約 100%です。(3) しかし日本ではほぼ無名です。

身近な例で例えると、アキラ・クロサワやタケシ・キタノという名前は世界的に有名ですが、ヨウジ・ヤマダはそれほどでもなく、『男はつらいよ』シリーズを観た人は日本以外ではまだ少ない、というのに似ています。いずれも劣らぬ偉大な監督ですが、国内と国外での知名度はアンバランス。こういう現象はたぶん、どこの国にもあるはずです。

このレオニード・ガイダイの作品が 2023 年、初めて日本の映画館で上映されました。それは 7 月 16 日、大阪の十三にある第七藝術劇場でのことでした。演目は『イワン・ワシリエヴィチ 転職する』(原題: Иван Васильевич меняет профессию)。これまでさまざまな形で日本に紹介されてはいましたが、正真正銘、日本の街かどの劇場でスクリーンにかけられたのはこのときが初めてだったのです。1973 年にソ連で公開されてから実に 50 年経っての歴史的イベントでした。

『イワン・ワシリエヴィチ 転職する』はコメディ映画です。満員の館内は幾度も大きな笑いに包まれました。作品そのものがおもしろいのはもちろんですが、何よりもいい字幕がついていたからです。観客がちゃんと笑い所でどっと受けるような字幕はそう作れるものではありません。このすばらしい字幕をつけたのは守屋愛さん。ロシア語コンテンツを日本に紹介するお仕事の最前線で活躍されている方で、最近「ロシア語映画発掘上映会」を主催されています。今回の『イワン・ワシリエヴィチ〜』もその一環で、実は大阪より少し早く東京で上映会が開かれました(ただし東京の会場は映画館ではありませんでした)。

みんなと一緒に笑っていると映画館に一体感が生まれてきます。これこそが劇場の醍醐味です。でも一方で、だんだんと気づいてきました。この一体感を味わえば味わうほど、自分は深い喪失感に襲われていくことに。

かつて存在したソ連という国の、国中の映画館で、観客たちが何度も一緒に笑いあったのと同じ体験を、今自分はしている。こんな世界がかつて実際に存在したことは知っていますが、まさか体験できるとは思っていませんでした。



新川崎駅付近にて(井上さん撮影)

だいたい、コメディ映画はハイコンテキストです。つまり異国の民にとっては、解説なしで笑うのが難しい、文化の断絶のオンパレードなのです。その断絶を軽々と飛び越えるような、優れた字幕と出会うことができ初めて、日本の映画館がレオニード・ガイダイの笑いで満たされるという奇跡は実現しました。これはその場にいと軽く脳がしびれるような快感です。

そんな至福を体験してしまった私は、だからこそ喪失感を覚えずにはいられなかったのです。字幕も解説もなくとも、この映画をみんなが爆笑で理解し合えた巨大な文化圏、ソ連がもうないことに。

レオニード・ガイダイの映画は危険です。私のような部外者ですら、これほどの喪失感を覚えるのです。ならば当事者、ソ連をふるさとと認める人々にとっては、その喪失感はどれほどでしょうか。

楽しかった思い出は決別しがたく、ときに人の判断を誤らせます。どうしてお前は俺の隣で笑ってくれないのだとむちゃくちゃなことを言って、大切な人を殴り始めたりするのです。

だから、レオニード・ガイダイの映画は危険なんです。もはや全世界が観るしかない。みんなが観たら喪失感のかわりに新しい文化が生まれるかもしれないからです。私もむちゃくちゃ言ってますが、ちょっとだけ本気です。

◆◆編集後記◆◆

▼本号は、新年恒例のスタッフあいさつ特集です。元旦に発生した能登半島大地震で新年気分は一気に吹き飛びました。被災者の救援と一日も早い復旧への取り組みを祈るばかりです。▼JICもまた危機の中にいます。こちらは自然災害ではなく、戦争という人為災害です。しかし、私たちは負けません。スタッフたちの新年メッセージにある通り、まだまだ頑張ります。本年もよろしくお願いいたします。(F)